

「第12回大師の里彦左衛門のあじさいまつり」～ふるさとの水と土に感謝して～に参加、水と土の大切さをアピール

平成20年6月8日（日）三重県多気町において「水と土に感謝して」をテーマに水土里ネット立梅用水を中心とした実行委員会が開催した「第12回大師の里彦左衛門のあじさいまつり」に、岩元農政局長をはじめ整備部職員が参加し、農地・水・環境保全向上対策の取り組みの他、パンフ「サイバーラビットの東海食べ物探検記」「食事バランスガイド」「いちばん身近な「食べもの」の話」を配布するなどして東海の農業や“食”についてPRしました。

このイベントは、平成5年から水土里ネット立梅用水の職員と住民有志がはじめた立梅用水沿いにあじさいを挿し木して増やす植栽活動「あじさいいっぱい運動」に端を発し、「彦左衛門のあじさいまつり」は「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに平成9年からスタートし、今年で12回目です。

今年の3月には運動の一環として取り組んできた全長30kmの「日本一長いあじさいの小径」が完成し、1万本以上のあじさいが咲きはじめました。



オープニングセレモニー

当日は、整備部や宮川用水第二期農業水利事業所の有志も参加した田んぼの綱引き大会や、立梅用水のボート下りのほか、ウナギのつかみ取りやマス釣り大会、田んぼのコンサートなど田んぼや農業用水、それを取り巻く農村景観を舞台として多彩な行事が繰り広げられました。

立梅用水沿いの東海農政局のブースでは、カエルやイモリや魚を入れた水槽を展示したところ、たくさんの子供が集まりました。

水槽をのぞき込んだ子供たちはスタッフの説明を聞きながら、身の回りの田んぼや水路といった身近なところにこのような生き物がいることに興味津々の様子でした。子供たちから「去年も見たよ」「来年も見られる？」と声をかけられたスタッフも何となく嬉しくなりました。



東海農政局ブースにて足を止める来場者

当日の来場者は約1万2千人にのぼったとのこと、たくさんの人々が「水と土への感謝」の気持ちを共有できたのではないのでしょうか。



職員も“田んぼ”とふれあいました



あじさい咲き乱れる中、田んぼのコンサート



立梅用水ボート下り

